

## 蕨市アウトメディア推進大会 記念講演会

蕨市立北小学校 養護教諭 徳野 絢香

7月16日（土）、蕨市アウトメディア推進大会が蕨市民会館で開催されました。学校関係者や各団体関係者、地域の方々など、多くの方が出席され、立ち見の方も出るくらいの大盛況ぶりでした。アウトメディア宣言の式典のあと、記念講演会として、NPO 法人 子どもとメディア 専務理事の古野陽一先生を講師にお迎えし、「いま、アウトメディアに取り組むワケとは？～子ども・親・地域は、何をすればいいのか～」をテーマに、ご講演いただきました。

先生がアウトメディアに取り組むきっかけとなったのは、自身のお子さまの実体験がきっかけだったそうです。教育用ビデオを家で見せていた我が子に起きた変化。乱暴で、落ち着かない様子が保育園で目立ち始め、保育士さんからの呼びとめられた一言が、今のアウトメディアへの活動につながっていったそうです。

メディア漬けが起こす体と心への影響はたくさんありますが、私が強く印象に残ったものは、ゲームによる影響でした。先生は、ゲームによりリアリティを失った現実の中で生きてしまうとおっしゃっていました。ゲーム漬けの生活が続くとその世界の主人公になった気分が現実でもぬけずに、その中に自分が居るという錯覚が起こってしまう。そう話したあとで、実際に自分の目線で相手を銃殺するゲームのVTRを流しました。その主人公は、もうすでに死んでいるのに何度も何度も銃で撃っていました。その様子はゲームとは思えないほどリアルで驚きました。もしこのゲームで現実との堺が分からなくなったら大変なことだと感じました。

最後に、だから「アウトメディア宣言」だと強くおっしゃっていました。市町村単位でのアウトメディア宣言は蕨市が全国で初めてだそうです。考え方はいたってシンプルで、対処策ではなく、予防策が必要。しかし、家庭では、「やめなさい！」「ダメ！」の規制ばかりではなかなかうまくいきません。おまけということで、ゲームに関するルールについてもアドバイスをしてくださいました。

親が一方向的に決めたルールでは守られないことが多い。そこで、家庭でのルールの決め方で大事なものは、「自分でルールを決めさせる」ということでした。責任を持たせるということと、何か反抗されたときに、「そのルールはあなたが決めたのよ」と言い返すことができるという点も強い。そして、そのルールを守れたら思いっきり褒めてあげることとご褒美をあげること。そうすればさらに次のルールを決めていくことができる。具体的なルールの例としては、「ゲームをしない日を週に3日以上つくる」「ゲームはセーブする時間も含めて1週間で合計3時間以内」「ゲーム機は外に持っていかない」などを挙げられました。また、繰り返しルールを破る場合は、ゲーム依存が始まっているので、「取り上げて1カ月以上の使用禁止にする」というルールも入れておくとのことでした。返却するとき、もう一度ルールを見直して、守りやすいルールにすることも大切。特に「お家の人に預ける」というルールを追加すると守りやすくなるとおっしゃっていました。

先生の分かりやすいスライドと、思わず聞き入ってしまうはつらつとした話し方に、2時間という講演時間があっという間に過ぎてしまいました。私自身、子ども時代にゲームやインターネット等にあまり触れてこなかったせいもあるのか、今のゲームの特徴、インターネットの怖い部分など初めて知ったこともたくさんありました。これからは確実にメディア社会です。その中で、そのメディアと上手に付き合う方法を私たち大人が学び、それを子どもたちに伝えていかななくてはならないと思いました。